

## 集団的自衛権

個別的自衛権と集団的自衛権の区別をするのがよくわからない。**集団的自衛権＝戦争**とデモ隊が書いているが、なぜだかわからない。朝日新聞が扇動しているらしいことはわかるけれど。たとえば尖閣列島の帰属は明らかに日本である。これを奪いに來る国があって、日米安全保障条約があるからいざという時には米国が助けてくれる、と思っていた鳩山や頭の悪い子供じゃあるまいし、日本がまず自分の国の領土を守るような目に見える活動をしなないと（つまり自衛隊が動かなければ）、米軍が助けてくれるはずがない。国際間の問題を「オンブに抱っこ」では誰が国土を守るのか。

日本が他国に攻められたとき、どこか善意の国や国連が助けてくれると思いますか？ 散々ひどい目にあつたのちによやく国連軍が来てくれても、国内はズタズタにされたあとになる。その間、虐待ならまだしも虐殺ならどうしますか？

憲法を定めるとき、「自衛権」に言及しなかった、国会議員や当事者たちの怠慢とも言えるかもしれないが、GHQの言うことだから。米国も勝手なもので、朝鮮戦争が勃発して自国だけではどうにもならなくなって、日本にも参戦をさせる。とりあえず警察予備隊をしつらえて、のちに自衛隊と称するようになる。すると「平和主義者」たちは、自衛隊の仕事は、災害時の救助だけだと思っている。そんなわけがあるはずがない。それならなぜ戦闘機やミサイルや軍艦などを購入したりするのか。国籍不明機が領空侵犯をしたらスクランブルで飛ぶのは自衛隊機である。毎日のようにある。

二言目には、「平和、平和」と叫ぶけれども、「戦後の平和主義」に毒された、あるいは洗脳された連中は、本当に「平和を願えば平和がくる」と信仰のように信じているのだろうか。チャーチルが、戦後「ナチスドイツが軍備増強をしたとき、これに対抗して軍備バランスを維持しておけば第二次世界大戦は起こらなかつたらう」と言い、「平和主義者が戦争を作った」と述べたのは至極もつともな意見である。あのトンマな鳩山が沖縄に行って「抑止力」と言ったから、沖縄県民が怒り日本中もあきれ返つたのも当然のことで、日本国憲法の前文には、「日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を自覚するのであって、**平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。・・・**」と書いてあります。本当に諸国民が平和を念願とし、公正さと信義に溢れている、と思いますか？ 近くの国は、5000年に及ぶ人間不信の歴史だし、また50回密謀をめぐらせるとき、49回は仲間による曝露の歴史である。**信義もへつたくれもない。**

日本人は「平和と水」は努力せずに入手できると思っている、と笑われている。平

和を唱えれば平和がくる、平和になる、と本当に思っているのですか？ 他国から「平和ボケ」といわれているのをご存知でしょうか？

それならなぜ南シナ海で、南沙諸島や西沙諸島の帰属を巡って中国とフィリピンやベトナムが争っているのでしょうか？ 遠くイラクまで行くのは、逆にわが国がそういう目にあったときに援助を見返りに期待するからではないか。イラクがクウェートに侵攻したとき、日本には軍隊がありませんから、で世界中の笑い者になった。それを是正して、せめて他国が被害にあったときに何らかの行動を記録しておかねば、世界中から孤立してしまう。一国平和主義なんか認めてくれるはずがない。かつて国連PKO（平和維持作戦）に自衛隊が参加するのを朝日新聞などは大反対して、なんとか阻止しようとしたが、知らぬ顔をして澄ましているわけにもいかないだろう。現に行って喜ばれたではないか。日本の責務は果たしたではないか。

「借りを作るな、貸しをつくれ」は、古来日本人の知恵だったのではないですか。

戦後、朝日のいうとおりにしていたら、日本は今でも世界から孤立する破目におちいっていただろう。サンケイの古森さんがいみじくも喝破したように、朝日の言うことの反対を実行していれば、とりあえずの安泰が確保されてきた。

朝日新聞の言い分は、弾圧でも虐殺（文化大革命や大躍進政策）でも中国サマがするのはいいが戦争中の日本軍の残虐行為のでっち上げは平気でするし、自衛隊には、海外邦人の救出さえ阻止しようとする。イラクで現地の人々から戻らないで欲しい、と言われた・・・自衛隊が海外にでることで、アジアの国々から「侵略を思い出させる」と言われたことなど一度もない。当然で、侵略などしていないのだから。もっぺん、反PKOと同じ轍を踏もうというのか。いっことも学習せえへん、でけへん、阿呆な新聞や。で、それに洗脳された連中の反対デモなのか。・・・・無視です。

ついでに9条も変えてくれたらええねんけど。自衛権のない国なんて・・・・専守防衛ゆうたら、海岸線で水際作戦ですか。すると武器は竹槍ですか。制空権・制海権をもって初めて防衛になる。あの戦争のことを忘れたのか。燃料も食べるものもなくなって、狙い定めてグラマンが逃げ回る無辜の市民を狙い撃ちしたのを忘れたのか。・・・・熱狂するのも冷めるのも早い国民性ですか。

防衛大学名誉教授佐瀬昌盛氏が語る。朝日新聞は集団ヒステリーに陥っている。自らの希望的観測に基づいて過去の事例を都合よく解釈しているものが目につく。

**集団的自衛権とは、国連憲章第51条に規定されていて、実態としては、ある国が攻撃された時に同盟国がその国を守るために反撃する権利。**

集団安全保障とは、国連決議などに基づいた多国籍軍や国連軍などのように様々な国が協力して派兵すること。

朝日はこれをごちゃ混ぜにして報道する。意図的に曲解して報道している。

専守防衛なんか日本にしかない概念で、英語でもドイツ語でもどの外国語を使っても誰も理解できない用語。

国連憲章の基本線は、「戦争の違法化」である。第 51 条では、ある国が外部からの攻撃を受けた場合、加盟国は集団的・個別的自衛権を行使できる。ただし、行使にあたっては、自衛権を行使した後、すぐに国連安全保障理事会に報告すること。自衛権の行使は、国連安全保障理事会が必要な措置を講じるまでの間に限る、という二重の制限も掛けられている。

だから、集団的自衛権は、ほかの国にしてみれば自明の権利で、空気のようなもので、議論にもならない。それを、集団的自衛権＝戦争・・・どう考えても理解できない。それに踊る人々の気持ちもわからない。それなら戦前の国民と一緒に、朝日などの「新聞」のいうとおりに空騒ぎし、大東亜戦争を起し、国家の存在まで危うくさせたのと同じじゃないですか。

2014. 07. 10.

「坂の上の雲」の一節から。

・・・日本においては、新聞は必ずしも叡智と良心を代表しない。むしろ流行を代表するものであり、新聞は（中略）国民を煽っているうちに、煽られた国民から逆に煽られるはめになり、（日本が無敵であるという）悲惨な錯覚をいただくようになった。日本をめぐる国際環境や日本の国力などについて論ずることがまれにあっても、いちじるしく内省を欠く論調になっていた。（・・・これがのちの太平洋戦争に至るまで続くのであるが、これら）戦勝報道の中で新聞自体が作りあげ、しかも新聞は、自体の体質変化に少しも気がつかなかった。（中略）

日本の新聞は、いつの時代にも外交問題には冷静を書く刊行物であり、そのことは日本の国民性の濃厚な反射でもあるが、つねに一方に片寄ることの好きな日本の新聞とその国民性が、その後も日本を常に危機においこんだ。」

・・・・・・朝日新聞のヒステリーの原因はこれか。

朝日新聞と共同通信は同じ穴の貉で、自衛隊蔑視キャンペーンをずっと行っている。

ある地域で鉄砲水が出て何人が土砂に埋もれている。自衛隊員は横一列になって泥沼の中を搜索する。それを家族が、「もっと探してといているのに（自衛隊は動い

てくれない」と知事だか誰かに訴える。新聞は、いかにも自衛隊が期待通りに動いていない風に報道する。家族は傍らで見ているだけ。・・・身内が埋もれているなら自分たちで、あるいは自分たちも探すのが家族である。少なくとも日本人はそうしてきた。

そこに自衛隊員が到着する。まず「ありがとう」だろう。そして一緒に泥沼に入って家族を探す。

それが端的に出たのが 3. 11. で、毎日震災死者数と行方不明者の数を発表する。死者数は増え、不明者は減る。新たに発見される遺体が増えていくから。誰が探したり、発見したりするのか。自衛隊員である。家族は、「外は臭くて」（朝日新聞）とか言いながら、日がな 1 日避難所で過ごす。・・・（一緒に探した人もいるはずだが）

自衛隊員は 2 ヶ月以上休暇なしの連続勤務で捜索する。風呂も被災民に譲って汚れた身体のまま雑魚寝をする。・・・（こういうことを新聞は書かない。）

外務省もひどい。90 年代半ば、ルワンダ内戦で難民がでると外務省はその救済に自衛隊員派遣を言い立てた。武装ゲリラは出沒するし、エイズは流行る。内戦に責任のある西欧諸国も尻込みしていた。米国が安保理常任理事国入りを餌に依頼してくる。外務省はとびつく。被害が出れば、外交効果があると読んで、自衛隊員は小銃と機関銃 1 丁。ほとんど丸腰。（・・・誰かが死ねば、儲けものくらいに思っている。）

自衛隊はそんな悪条件の下、責務を果たし、武装ゲリラに襲われた NGO の日本人医師も救出した。共同・朝日は自国民救出など越権行為だと非難する。（・・・バカかこいつら！窮地の日本人を救出してどこが悪い！）誰も被害を受けなかったからか、外務省の報復は陰険。年末、ロンドンから帰国する隊員たちに、迷彩服は仰々しいから私服にしる。（・・・誰がスーツなんか持っていくか！迷彩服は制服だ）飛行機の中で、ひどい身なりの集団に乗客は驚いた。機長のアナウンスでわかった。

「このたびは任務を終え帰国される自衛隊員の皆さま、お国のためにまことに有難うございました。国民になり代わり機長より厚く御礼申し上げます。当機は一路日本に向かっております。皆さま故国でよいお年を迎えられますよう」

異形の集団を包むように周囲の客席から拍手が沸き、その輪がやがて機内一杯に広がって行った。

機長は乗客リストをみて自衛隊員の帰国を知り「日本人として当然のことはただけ」と語る。

成田に着いたあと 65 人の隊員はコックピットの見える通路に整列し機長に向かって敬礼した。

被災地はともかく日本人はまだまだ一杯いる。

2014. 07. 16.